

# 四半期報告書

(第95期第3四半期)

自 2021年10月1日

至 2021年12月31日

**三菱瓦斯化学株式会社**

東京都千代田区丸の内二丁目5番2号

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 ..... 1
- 2 事業の内容 ..... 1

### 第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク ..... 2
- 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 ..... 2
- 3 経営上の重要な契約等 ..... 4

### 第3 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 ..... 5
- (2) 新株予約権等の状況 ..... 5
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 ..... 5
- (4) 発行済株式総数、資本金等の推移 ..... 5
- (5) 大株主の状況 ..... 5
- (6) 議決権の状況 ..... 6

#### 2 役員の状況 ..... 6

### 第4 経理の状況 ..... 7

#### 1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 ..... 8
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ..... 10
  - 四半期連結損益計算書 ..... 10
  - 四半期連結包括利益計算書 ..... 11

#### 2 その他 ..... 19

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報 ..... 20

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年2月14日
【四半期会計期間】	第95期第3四半期（自 2021年10月1日 至 2021年12月31日）
【会社名】	三菱瓦斯化学株式会社
【英訳名】	mitsubishi gas chemical company, inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤井 政志
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号
【電話番号】	(03) 3283-5080
【事務連絡者氏名】	財務経理部経理グループ グループマネージャー 小林 千果
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号
【電話番号】	(03) 3283-5080
【事務連絡者氏名】	財務経理部経理グループ グループマネージャー 小林 千果
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第94期 第3四半期連結 累計期間	第95期 第3四半期連結 累計期間	第94期
会計期間	自 2020年 4月1日 至 2020年 12月31日	自 2021年 4月1日 至 2021年 12月31日	自 2020年 4月1日 至 2021年 3月31日
売上高 (百万円)	428,181	525,297	595,718
経常利益 (百万円)	33,311	58,312	50,240
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	26,033	39,350	36,070
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	31,857	47,306	53,101
純資産額 (百万円)	560,165	611,967	581,411
総資産額 (百万円)	814,657	904,904	836,364
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	125.16	189.16	173.41
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	61.92	60.98	62.68

回次	第94期 第3四半期連結 会計期間	第95期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 2020年 10月1日 至 2020年 12月31日	自 2021年 10月1日 至 2021年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	56.62	53.65

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

主要な関係会社における異動につきましては、以下のとおりであります。

- ・MGC Specialty Chemicals Netherlands B.V.は重要性が増したことから、連結の範囲に含めております。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しております。

詳細は「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（会計方針の変更）」に記載のとおりであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間（2021年4月1日～2021年12月31日）における世界経済は、新型コロナウイルス感染症による影響からの回復がみられたものの、半導体不足や、原燃料価格の高騰、物流網の混乱の影響が継続しているほか、足元では新たな変異株の拡大などもあり、依然として先行きが不透明な状況が続いています。

当社グループを取り巻く事業環境は、新型コロナウイルスの影響を受けた自動車分野等の需要が回復したほか、半導体向け製品の需要も市場拡大に伴って好調に推移しました。原燃料価格が上昇するなか、メタノール、ポリカーボネート等の汎用製品の市況も上昇しました。

なお、当社グループは、2021年度よりスタートした新中期経営計画「Grow UP 2023」のもと、「環境変化に強い収益構造への転換」を目指し、「競争優位（“差異化”）事業の更なる強化」、「新規事業の創出と育成の加速」、「不採算事業の見直し・再構築」の施策による事業ポートフォリオ改革を推進してまいります。

当社グループの売上高は、メタノール等の市況上昇や、全般的な販売数量の回復などにより、増収となりました。

営業利益は、原燃料価格の上昇や、光学樹脂ポリマーの販売数量減少などの減益要因があったものの、新型コロナウイルスで影響を受けた製品の需要回復や、汎用製品の市況上昇、半導体向け製品の販売数量増加などにより、増益となりました。

経常利益は、営業利益の増加に加え、エンジニアリングプラスチック関連会社および海外メタノール生産会社に係る持分法損益が増加したことなどから、増益となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、中国のポリカーボネート子会社の減損損失(36億円)など特別損失が増加したものの、経常利益が増加したことなどから、増益となりました。

以上の結果、売上高5,252億円（前年同期比971億円増（22.7%増））、営業利益448億円（前年同期比155億円増（53.0%増））、持分法利益109億円（前年同期比71億円増（187.0%増））、経常利益583億円（前年同期比250億円増（75.0%増））、親会社株主に帰属する四半期純利益393億円（前年同期比133億円増（51.2%増））となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。

#### 〔基礎化学品〕

メタノールは、市況が前年同期に比べ大幅に上昇したことなどから、増収増益となりました。

メタノール・アンモニア系化学品は、原料価格の上昇があったものの、ネオペンチルグリコールの市況上昇などにより、増収増益となりました。

ハイパフォーマンスプロダクツ※1は、メタキシレンジアミン(MXDA)の需要が新型コロナウイルスの影響を受けた前年同期から回復したほか、芳香族アルデヒドの販売も堅調であったことなどから、増収増益となりました。

※1 MXDA、MXナイロン、芳香族アルデヒド等、旧特殊芳香族化学品の製品群

キシレン分離/誘導品※2は、高純度イソフタル酸(PIA)の市況が上昇したことなどにより、増収増益となりました。

※2 メタキシレン、PIA等、旧汎用芳香族化学品の製品群

発泡プラスチック事業は、原燃料価格の上昇があったものの、フラットパネルディスプレイ保護材や自動車向け材料の販売数量が増加したことなどから、前年同期を上回る損益となりました。

以上の結果、売上高3,126億円（前年同期比793億円増（34.0%増））、営業利益235億円（前年同期比167億円増（245.0%増））、経常利益288億円（前年同期比201億円増（230.1%増））となりました。

#### 〔機能化学品〕

無機化学品は、半導体向け薬液の販売数量が増加したことなどから、増収増益となりました。

エンジニアリングプラスチックは、原燃料価格の上昇などによりポリカーボネートの採算が悪化したものの、自動車分野を中心に販売数量が回復したことや、ポリアセタールの販売好調などにより、増収増益となりました。

光学材料は、光学樹脂ポリマーの需要が第1四半期を底に回復に転じたものの、上半期の顧客の在庫調整などにより販売数量が減少したことなどから、減収減益となりました。

電子材料は、主力の半導体パッケージ用BT材料において、PC関連機器や家電など幅広い分野で使用される汎用材料の販売数量が増加したことに加え、メモリーや5Gスマートフォン向けも好調に推移したことなどから、増収増益となりました。

「エージレス®」等の脱酸素剤は、国内食品向けの回復等により、新型コロナウイルスの影響を受けた前年同期を上回る損益となりました。

以上の結果、売上高2,124億円（前年同期比178億円増（9.2%増））、営業利益244億円（前年同期比1億円減（0.5%減））、経常利益312億円（前年同期比54億円増（21.3%増））となりました。

#### 〔その他の事業〕

その他の事業の売上高は1億円（前年同期比0億円減（28.9%減））、営業損失は1億円（前年同期比0億円悪化）、経常損失は0億円（前年同期比1億円悪化）となりました。

#### （2）財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて685億円増加の9,049億円となりました。

流動資産は、368億円増加の4,390億円となりました。増加の要因は、受取手形、売掛金及び契約資産の増加などがあります。

固定資産は、316億円増加の4,658億円となりました。増加の要因は、投資有価証券の増加などがあります。

負債は、379億円増加の2,929億円となりました。流動負債は、支払手形及び買掛金の増加などにより352億円増加しました。固定負債は、退職給付に係る負債の増加などにより27億円増加しました。

純資産は、305億円増加の6,119億円となりました。増加の要因は、利益剰余金の増加などがあります。

この結果、自己資本比率は61.0%となりました。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、15,630百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	492,428,000
計	492,428,000

###### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数 (株) (2021年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (2022年2月14日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	225,739,199	225,739,199	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	225,739,199	225,739,199	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2021年10月1日～ 2021年12月31日	—	225,739,199	—	41,970	—	35,668

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2021年12月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 17,766,700	—	単元株式数 100株
完全議決権株式 (その他)	普通株式 207,740,500	2,077,405	同上
単元未満株式	普通株式 231,999	—	一単元 (100株) 未満の株式
発行済株式総数	225,739,199	—	—
総株主の議決権	—	2,077,405	—

(注) 1. 「単元未満株式」には、次の自己株式及び相互保有株式が含まれております。

自己株式33株、山田化成㈱5株

2. 「完全議決権株式(その他)」には、株式会社証券保管振替機構名義の株式500株(議決権の数5個)が含まれております。

② 【自己株式等】

2021年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
当社	東京都千代田区丸の内2-5-2	17,693,200	—	17,693,200	7.84
山田化成㈱	東京都千代田区内神田2-8-4	70,500	—	70,500	0.03
菱江ロジスティクス㈱	大阪府豊中市神州町2-81	3,000	—	3,000	0.00
計	—	17,766,700	—	17,766,700	7.87

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

#### 第4【経理の状況】

##### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

##### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2021年10月1日から2021年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	101,785	84,504
受取手形及び売掛金	159,018	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	※2 185,851
有価証券	269	43
商品及び製品	63,887	75,178
仕掛品	13,242	20,313
原材料及び貯蔵品	44,145	53,649
その他	20,209	20,842
貸倒引当金	△416	△1,351
流動資産合計	402,141	439,031
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	92,274	98,992
機械装置及び運搬具（純額）	81,113	80,415
その他（純額）	76,543	90,006
有形固定資産合計	249,931	269,413
無形固定資産		
のれん	4,914	4,920
その他	5,584	6,140
無形固定資産合計	10,499	11,060
投資その他の資産		
投資有価証券	158,718	169,583
その他	15,619	16,370
貸倒引当金	△545	△554
投資その他の資産合計	173,792	185,398
固定資産合計	434,223	465,873
資産合計	836,364	904,904

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	75,308	※2 100,771
短期借入金	40,087	38,126
未払法人税等	5,809	8,040
引当金	6,373	3,532
その他	40,368	52,749
流動負債合計	167,947	203,221
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	36,202	36,274
引当金	1,517	1,820
退職給付に係る負債	7,150	8,118
資産除去債務	5,113	5,110
その他	17,022	18,392
固定負債合計	87,006	89,716
負債合計	254,953	292,937
純資産の部		
株主資本		
資本金	41,970	41,970
資本剰余金	34,301	34,339
利益剰余金	459,790	483,509
自己株式	△21,562	△21,524
株主資本合計	514,499	538,295
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,419	12,949
繰延ヘッジ損益	△618	△672
為替換算調整勘定	△3,542	1,985
退職給付に係る調整累計額	△494	△769
その他の包括利益累計額合計	9,765	13,493
非支配株主持分	57,146	60,178
純資産合計	581,411	611,967
負債純資産合計	836,364	904,904

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	428,181	525,297
売上原価	328,442	401,056
売上総利益	99,739	124,241
販売費及び一般管理費	70,404	79,352
営業利益	29,335	44,888
営業外収益		
受取利息	270	253
受取配当金	2,277	3,058
持分法による投資利益	3,825	10,976
その他	2,520	3,191
営業外収益合計	8,894	17,480
営業外費用		
支払利息	589	614
出向者労務費差額負担	1,064	1,051
固定資産処分損	922	1,018
その他	2,342	1,371
営業外費用合計	4,918	4,056
経常利益	33,311	58,312
特別利益		
受取保険金	—	※1 2,616
段階取得に係る差益	—	※2 796
投資有価証券売却益	1,496	777
固定資産売却益	※3 257	—
受取補償金	152	—
特別利益合計	1,905	4,190
特別損失		
減損損失	※4 373	※4 4,983
貸倒引当金繰入額	—	※5 860
関係会社事業損失引当金繰入額	—	※6 255
損害補償損失	307	228
火災による損失	—	※7 128
特別損失合計	681	6,457
税金等調整前四半期純利益	34,536	56,045
法人税等	5,779	13,388
四半期純利益	28,756	42,657
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,723	3,306
親会社株主に帰属する四半期純利益	26,033	39,350

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	28,756	42,657
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,180	△1,526
繰延ヘッジ損益	△6	6
為替換算調整勘定	△82	3,835
退職給付に係る調整額	241	△194
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,232	2,528
その他の包括利益合計	3,100	4,648
四半期包括利益	31,857	47,306
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	29,375	43,105
非支配株主に係る四半期包括利益	2,481	4,201

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

### (1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、MGCエージェレス(株)及びグローバルポリアセタール(株)は重要性が増したことから、連結の範囲に含めております。

当社の非連結子会社である日新運輸(株)は、当社の連結子会社であったMGCアドバンスケミカル(株)及び当社の非連結子会社であったエムジーシー・エンジニアリング(株)を吸収合併し、MGCアドバンス(株)に商号変更しております。これにより、MGCアドバンスケミカル(株)は吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外し、MGCアドバンス(株)は重要性が増したことから、連結の範囲に含めております。

JSP Sheet Foam LLCは清算により、連結の範囲から除外しております。

(株)J-ケミカルは株式の取得に伴い、連結の範囲に含めております。(株)ユタカケミカルは、(株)J-ケミカルの株式取得に伴い持分比率が増加したため、連結の範囲に含めております。

第2四半期連結会計期間より、日本サーキット工業(株)は清算したため、連結の範囲から除外しております。

当第3四半期連結会計期間より、MGC Specialty Chemicals Netherlands B.V.は重要性が増したことから、連結の範囲に含めております。

### (2) 持分法適用の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、湯沢地熱(株)は重要性が増したことから、持分法適用の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、買戻し義務を負っている有償支給取引について、従来は支給品の譲渡に係る収益を認識しておりましたが、支給品の譲渡に係る収益を認識せず、当該支給品の消滅も認識しない方法に変更しております。

また、顧客への商品等の販売における当社グループの役割が代理人に該当する取引について、従来は顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、当該対価の総額から商品等の仕入先への支払額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は26,889百万円、売上原価は26,779百万円、販売費及び一般管理費は56百万円それぞれ減少し、営業利益は53百万円、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は33百万円それぞれ減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は50百万円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これにより、その他有価証券のうち市場価格のある株式については、従来、決算日前1ヶ月の市場価格等の平均に基づく時価法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、決算日の市場価格等に基づく時価法に変更しております。なお、当第3四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定)に記載した仮定から、重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

	前連結会計年度 (2021年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
Caribbean Gas Chemical Ltd.	27,309百万円	Caribbean Gas Chemical Ltd.	27,171百万円
従業員	43	従業員	36
その他 9社	2,366	その他 8社	3,423
計	29,719	計	30,631

※2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
受取手形	—	百万円	2,093百万円
支払手形	—		1,395

(四半期連結損益計算書関係)

※1 受取保険金の内容は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
受取保険金	—	百万円	2,616百万円

当第3四半期連結累計期間の「受取保険金」は、ユーティリティー設備の停止及び製造設備の事故に係るものであります。

※2 段階取得に係る差益の内容は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
段階取得に係る差益	—	百万円	796百万円

当第3四半期連結累計期間の「段階取得に係る差益」は、関連会社であった(株)ユタカケミカルの株式を第1四半期連結会計期間において追加取得し連結子会社としたことによるものであります。

※3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
固定資産売却益	257	百万円	—

前第3四半期連結累計期間の「固定資産売却益」は、土地の売却によるものであります。

※4 減損損失の内容は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
減損損失	373百万円	4,983百万円

前第3四半期連結会計期間にて計上した重要な減損損失は以下のとおりであります。

重要な減損損失

場所	用途	種類	減損損失
岡山県倉敷市	有機化学品製造設備	機械装置 他	373百万円

当社及び連結子会社は、原則として事業用資産については継続的に損益を把握している管理会計上の区分を基礎としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとに把握しております。

当社が保有する有機化学品製造設備の一部について、回収可能価額が帳簿価額を下回ったことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として373百万円計上しております。その内訳は、機械装置及び運搬具300百万円、建物及び構築物73百万円であります。

なお、有機化学品製造設備の回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスのため、備忘価額により評価しております。

当第3四半期連結累計期間にて計上した重要な減損損失は以下のとおりであります。

重要な減損損失

場所	用途	種類	減損損失
中華人民共和国上海市	合成樹脂製造設備	建物、機械装置 他	3,683百万円
福島県白河市	賃貸設備	建物、機械装置 他	1,194百万円

当社及び連結子会社は、原則として事業用資産については継続的に損益を把握している管理会計上の区分を基礎としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとに把握しております。

連結子会社である三菱瓦斯化学工程塑料（上海）有限公司が保有する合成樹脂製造設備及び当社が保有する関係会社へ貸与している賃貸設備の一部について、回収可能価額が帳簿価額を下回ったことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として4,878百万円計上しております。その内訳は、機械装置及び運搬具2,697百万円、建物及び構築物1,863百万円、無形固定資産33百万円、その他283百万円であります。

なお、合成樹脂製造設備の回収可能価額は使用価値により測定し、使用価値測定に用いた将来キャッシュ・フローは10.06%で割り引いております。賃貸設備の回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスのため、備忘価額により評価しております。

また、上記以外の減損損失は、重要性が乏しいため、記載を省略しております。

※5 貸倒引当金繰入額の内容は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
貸倒引当金繰入額	一百万円	860百万円

当第3四半期連結累計期間の「貸倒引当金繰入額」は、関係会社に対するものであります。

※6 関係会社事業損失引当金繰入額の内容は次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
関係会社事業損失引当金繰入額 一百万円	255百万円

当第3四半期連結累計期間の「関係会社事業損失引当金繰入額」は、関係会社の財政状態等を勘案し、将来の損失負担に備えるものであります。

※7 火災による損失の内容は次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
火災による損失 一百万円	128百万円

当第3四半期連結累計期間の「火災による損失」は、韓国連結子会社における火災による損失であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
減価償却費	22,690百万円	23,964百万円
のれんの償却額	279	295

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年5月26日 取締役会	普通株式	7,279	35	2020年3月31日	2020年6月8日	利益剰余金
2020年11月2日 取締役会	普通株式	7,280	35	2020年9月30日	2020年12月4日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年5月26日 取締役会	普通株式	7,280	35	2021年3月31日	2021年6月7日	利益剰余金
2021年11月5日 取締役会	普通株式	9,362	45	2021年9月30日	2021年12月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	基礎化学品 事業部門	機能化学品 事業部門	その他の事業 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	233,295	194,611	275	△1	428,181
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	5,672	353	△1	△6,024	—
計	238,968	194,964	274	△6,025	428,181
セグメント利益又は損失 (△) (経常利益又は経常損失 (△))	8,747	25,782	41	△1,259	33,311

(注) 1. 「その他の事業」には、報告セグメントに属していない不動産事業等を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失の調整額△1,259百万円は、セグメント間取引消去△9,686百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用8,427百万円であります。

全社費用は、報告セグメントに配分していない一般管理費、金融収支、雑損益等であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「基礎化学品事業部門」において373百万円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	基礎化学品 事業部門	機能化学品 事業部門	その他の事業 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	312,690	212,456	195	△44	525,297
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	4,077	68	12	△4,158	—
計	316,768	212,524	207	△4,202	525,297
セグメント利益又は損失 (△) (経常利益又は経常損失 (△))	28,872	31,279	△81	△1,758	58,312

(注) 1. 「その他の事業」には、報告セグメントに属していない不動産事業等を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失の調整額△1,758百万円は、セグメント間取引消去△274百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,484百万円であります。

全社費用は、報告セグメントに配分していない一般管理費、金融収支、雑損益等であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「機能化学品事業部門」において3,789百万円、「その他の事業」において1,194百万円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「基礎化学品事業部門」において、(株)J-ケミカルの株式を取得し連結子会社化したことにより、292百万円のが発生しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

第1四半期連結会計期間より、事業セグメントの区分方法を見直し、「その他の事業」に含まれていたエネルギー等に関連する事業を「基礎化学品事業部門」に移管しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(会計方針の変更)

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「基礎化学品事業部門」の外部顧客への売上高が11,372百万円減少、セグメント利益が22百万円減少し、「機能化学品事業部門」の外部顧客への売上高が15,510百万円減少、セグメント利益が2百万円減少し、「その他の事業」の外部顧客への売上高が6百万円減少し、「調整額」のセグメント損失が8百万円増加しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

(単位：百万円)

	基礎化学品 事業部門	機能化学品 事業部門	その他の事業 (注)	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
天然ガス系化学品	162,931	—	—	—	162,931
芳香族化学品	149,759	—	—	—	149,759
機能化学品	—	158,196	—	—	158,196
特殊機能材	—	54,259	—	—	54,259
その他	—	—	50	△44	5
顧客との契約から生じる 収益	312,690	212,456	50	△44	525,152
その他の収益	—	—	145	—	145
外部顧客への売上高	312,690	212,456	195	△44	525,297

(注) 「その他の事業」には、報告セグメントに属していない不動産事業等を含んでおります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	125円16銭	189円16銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	26,033	39,350
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半 期純利益金額 (百万円)	26,033	39,350
普通株式の期中平均株式数 (千株)	208,001	208,033

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

株式取得による連結子会社化

当社は、2022年2月8日開催の取締役会において、当社の持分法適用会社である三菱エンジニアリングプラスチックス株式会社の株式を追加取得することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

なお、株式取得後は当社の連結子会社となる予定です。

1. 株式取得の目的

当社グループは、本年度からスタートした中期経営計画「Grow UP 2023」において、「環境変化に強い収益構造への転換」を目指し、事業ポートフォリオ改革を推進しておりますが、ポリカーボネート (PC) 事業は基盤事業として高付加価値化による収益力の引き上げを目指しております。

三菱エンジニアリングプラスチックス株式会社は、1994年に当社と三菱ケミカル株式会社の折半出資で設立されて以降、国内外27箇所に事業拠点を広げ、顧客に密着した技術サービスと顧客ニーズに応える幅広い製品を提供しております。PCの世界シェアは10%超で、販売会社として世界第3位を占めております。

今回の連結子会社化により、三菱エンジニアリングプラスチックス株式会社が有する技術サービスやマーケティング機能などの経営資源を最大限活用することで、当社が強みを持つ界面法PCの品質優位性の活用を始めとした高付加価値化戦略を加速し、PC事業の競争力向上に結び付けてまいります。

2. 株式取得の相手会社

三菱ケミカル株式会社

3. 買収する会社の名称、事業内容、規模

名称 : 三菱エンジニアリングプラスチックス株式会社  
事業内容 : エンジニアリングプラスチックスの販売  
資本金 : 3,000百万円

4. 株式取得の時期

2023年4月3日 (予定)

5. 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

取得する株式の数 : 15,000株

取得後の持分比率 : 75%

取得価額につきましては、相手方との契約上の守秘義務により非公開とさせていただきます。

なお、上記の株式取得に伴い、三菱エンジニアリングプラスチックス株式会社が60%出資し、当社の持分法適用会社であるTHAI POLYCARBONATE CO., LTD. は当社の連結子会社となる予定です。

## 2【その他】

配当

2021年11月5日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額……………9,362百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………45円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………2021年12月6日

(注) 2021年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年2月14日

三菱瓦斯化学株式会社

取締役会 御中

東陽監査法人

東京事務所

指定社員 公認会計士 小林 弥  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 井澤 浩昭  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 川久保 孝之  
業務執行社員

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三菱瓦斯化学株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2021年10月1日から2021年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三菱瓦斯化学株式会社及び連結子会社の2021年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。